



図書館だより

ビブリアバトル 2学年大会が実施されました！

6月22日の六時間目、多目的ホールでビブリアバトルの2学年大会が、実施されました！各クラスから一人ずつ代表者が選ばれ、それぞれ持ち寄りのおすすめの本を紹介しました。チャンプ本に選ばれたのは、2年4組藤巻勇也くんが発表した「君の顔では泣けない」(君嶋彼方)！

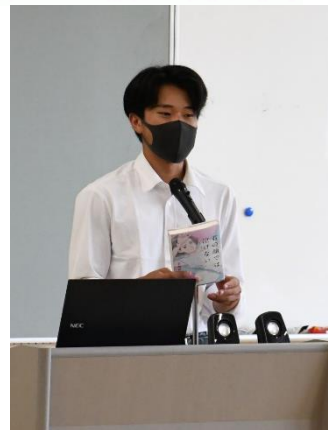
同内容は、上毛新聞(6月26日)の記事にもなりました！(裏面参照)

なお、近日中に1学年大会も実施予定！



『君の顔では泣けない』あらすじ

高校一年生の坂平陸は、プールと一緒に落ちたことがきっかけで同級生の水村まなみと体が入り替わってしまう。いつか元に戻ると信じ、入れ替わったことは二人だけの秘密にすると決めた陸だったが…。



☆加邊校長のオススメ本 紹介☆

前号の教頭先生のオススメ本紹介文に、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」が引用されていた。「雨ニモマケズ… 欲ハナク 決シテ暁ラス… サウイフモ/ニワタシハナリタイ」

この一節を見ると必ず思い出す人物がいる。それが今回紹介する、三浦綾子「泥流地帯」の主人公、拓一・耕作兄弟である。私がこの本と出会ったのは高校2年生。あれから40年過ぎた今でも時々思い出しては読み続けている作品である。

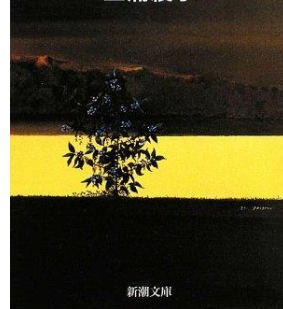
大正15年5月24日、北海道十勝岳の大噴火により発生した高温の岩なだれは、残雪を溶かし火山泥流となって上富良野一体を襲った。貧しさにも、親の不在にも耐え、祖父母と明るく誠実に生きてきた兄弟たちの、ささやかではあるが幸せな生活をすさまじい泥流が飲み込んでしまう…。真面目に、ひたむきに生きる人間に課せられる苦難とは何なのか？真実に生きた結果が報われるものであって欲しいとは、誰もが望むことであり期待することである。しかし、この作品は真面目に生きた者たちに苦難を与え続ける。耕作は恩師に「先生、一体どうして、まじめな者がこんなひどい目に遭うんですか。こんなひどい苦しみに。」と問う。

いつの時代も自然災害は突然にやってくる。阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、雲仙普賢岳火砕流、御嶽山大噴火等々、現実に未曾有の災害が起こっている。どんなに真面目に生きていたって容赦はしない。だからといって真面目に生きることを否定し投げ出すわけにはいかない。拓一がこんなことを言っている。「わかってもらえなくてもさ(中略)試練だと受けとめて立ち上がった時にね、苦難の意味が分かるんじゃないだろうか。」

「真面目に生きること」の意味を問う一冊。続編の「続泥流地帯」と合わせて手に取ってほしい。

泥流地帯

三浦綾子



生命は力なり。 力は声なり。 声は言葉なり。
新しき言葉は、すなはち、新しき生命なり。

——島崎藤村——



※詩人・小説家。苗字が二つ並んでいるようですが、名前は「ふじむら」ではなく「とうそん」。